

ステキな星の魔法

あかねぐも 岐阜県

あれはもう、4年も前の事になるだろうか。当時3歳のユウタを保育園に迎えに行った寒い日の事だ。

母親である私は美容業を経営しており、その日は定例講習の為、名古屋に出張で、お迎えは7時ギリギリになってしまった。

園に到着すると灯りのついているのは、玄関と職員室のみで、階段や廊下の電気は消され、シーンと静まりかえっていた。

玄関の時計は6時59分

(滑り込み！ セーフ！！)

と扉を開け、私は声を張り上げた。

「お世話様でしたー！ 遅くなってすみませーん！！」

すると職員室のドアが開き、体格に不釣り合いな大きな通園リュックを背負ったユウタが、赤いホップで、トコトコ出て来た。手には、延長保育児だけの特権の折り紙を持っていた。

(やはり、ラス1だったかぁ……。)

担任の早苗先生は、嫌な顔もせず、

「今日も元気に遊びました。給食も残さず食べました。」

と、いつもの様に、報告してくれた。親としてホッとする瞬間である。

私の仕事の都合で、通園バスは利用せず、仕事の合間のマイカー通園という不規則なスタイルが定着していた。ユウタは、ラス1の常連で、本人も慣れたものだった。

暖かい職員室から出て来たユウタの手は、ポカポカだった。

ふと見ると玄関に1枚のポスターが貼られていた。

隣町のプラネタリウムの案内だった。

隣町と言っても車で1時間はかかるだろうか。その時、私の頭には初めてプラネタリウムに行った小学4年生の記憶が甦ってきた。

屋上にプラネタリウムのある別の地区の中学校に遠足を兼ね、地下鉄2駅を全学年で歩いて行った。ドーム型のピカピカした屋根が印象に残っている。室内に入ると、丸い天井に丸い部屋と中央に丸いレンズが沢山ついた初めて見る物体があった。仲良しの友だちと隣の席に座り、

「あ～疲れたねえ～」

と、一息し背凭れに寄りかかったらグーンとリクライニングし一瞬、目が点になって大笑いした。星座の神話は夢見心地なロマンチックな世界で、

(星の王子様が、私を迎えに来てくれる。)

なんて乙女チックな夢を語り合ったりした。そんな30年も前の記憶だ。

3歳のユウタをチャイルドシートに乗せ、帰宅までの5分、私は星の話をした。その日は星が降る様に輝いていた。ユウタは車窓から、夜空を見上げたかと思うと、突然、

「バナナ！！」

と、呼んだ。三ヶ月の事だった。

そのユウタも、今では小学2年生になった。彼の今、一番の趣味はプラネタリウムである。初めてプラネタリウムに連れて行ってから4年、毎月2～3回は通い、すっかり常連になった。中でも、お気に入り、月一度の天体観望会で、毎回新しい事を覚えて来る。

「土星の輪って細いチリや氷の集まりで、厚みは100m位なんだってよ。それって、ヨーイ・ドン！！って走れる距離だよ。」

「月って地球のどの国から見ても同じ面しか見えずに、裏は表より、すべすべなんだよ。クレーター1つ1つに名前がついていて、発見者が、つけられるんだよ。」

と、興奮ぎみに話してくれる。考えてみれば大人になってからは恥ずかしく質問できない事もユウタは気負わずストレートに質問できて、羨ましい。

(実は、いつの間にか、ユウタに負けぬ程、私も天体にハマっているのです。)

ガリレオも四百年前、ワクワクしながら同じ星を眺めたのか……と考えると壮大な宇宙のロマンを感じます。そして、チツポケな事にくよくよするのは、やめようと思ったりもするのです。

「人類が初めて月面着陸したのは7月20日なんだって。それって、お母さんの誕生日だよ。だから、お母さんは星を見るのが好きなんだね。」

キラキラした目で話す我が子を見て、しみじみ成長を感じたりもするのです。

日食観望会にも参加した。

岐阜地区では薄曇りではあったが、見る見る細くなる太陽を見ながら、

「何か、おきるかも！！」

とワクワクしました。クライマックスには、真夏にもかかわらず、空気がひんやり、森の中に居る様な気配を体感し、人生で数少ないチャンスに親子で遭遇し、かけがいのない時間、世界天文年のイベントを堪能しました。

先日、ユウタが、

「大人に成る迄に宇宙の事を、もっともっと知って、色々な星に宇宙人の友だちを作りたい。」

と、作文を書きました。それを同級生に、

「宇宙人なんか本当は居ないんだゾ。」

と、バカにされ、シヨンボリ学校から帰って来ました。そんなユウタに私は、

「宇宙人は、まだ発見されてはいないけれど、宇宙は広いから、まだ探せないだけで、お母さんも、友だちになりたいよ。」

と、話すと、いつもの笑顔のユウタに戻り、親として、このまま素直に、夢を持ち続けて欲しいと感じた。

私は、この夏休み、膝の手術をした。若い頃からの無理で半月板を切ってしまったのだ。手術は内視鏡で半身麻酔で行われた。ずっと意識があったので、その時の様子を、ユウタに、こう話した。

『お母さんは地球人代表で、宇宙人に捕まえられた。4人の宇宙人は、青い服を着て、マスクを

し、目だけを出し、両手に手袋をしていた。宇宙船の中は、幻想的な音楽が流れ、冷たいベッドに両手両足を縛られた。眩しい丸いライトが沢山輝いていた……』

ユウタは母親の話をニンマリ聞いていた。

今年は若田宇宙飛行士が4ヵ月も、国際宇宙ステーションに滞在したり、無人宇宙船 ISS ドッキング成功と、宇宙を身近に感じられる事が沢山あった。軍事目的ではなく、平和目的で H2A ロケットを打ち上げたのは、日本だけと聞くと、誇らしい気持ちになります。将来は、コタツの上のリモコンで、テレビの画面を見ながら、宇宙のロボットを操作するなんて事も、現実になるかもしれません。だって、数年前は、テレビ電話を携帯するとか、全自動で乾燥迄する洗濯機なんて、アトムか999の世界のお話しでした。

子供の柔軟な発想が、未来の発明に繋がると考えるので、宇宙人の話をするチョット変わった子は「金の卵」だと見守っています。

今日も、これからプラネタリウムに行きます。木星と秋の星座の観望会の日です。まずプラネタリウムで1時間程度、今日の星の説明を聞いてから屋上で望遠鏡を覗きます。

ここで1つ秘密の告白をします。

これはユウタにも話した事はないのですが、私はプラネタリウムに入ると、頭の中で1曲の決まった曲が流れます。それは「山口百恵さんの乙女座宮」で、小4の時に乙女チックな夢を語り合った、あの風景が重なるのです。お母さんが、時々カラオケで歌う、「乙女座宮」に、そんな秘密があるとは、誰も知りません。

何回観望会に参加しても、望遠鏡を覗き込んだ時のハッとしたユウタの表情が、私は大好きです。あのキラキラした目が見られるなら、1時間の運転も、お安い御用です。大人には考えつかない、すごいハッケンをし、今日も、周囲の大人を爆弾発言で、大笑いさせてくれることでしょう。

なんたって、ユウタの原点は、

「バナナ！！」

ですから。

ユウタの笑顔が、いつまでも続くこと、世界平和、宇宙平和までも願ってしまいます。

私はユウタには、いつも色々な事に挑戦し百聞は一見に如かずの教育を心掛けてきました。でも、私自身、最近何かに挑戦したのだろうか……と考えると子供の手本に成る様な事が思い浮かびませんでした。

そこで、このエッセイ賞に勇気を持って参加します。活字は、パソコン、手紙よりはメールの私ですが、「星空にペンをかざして」というテーマに心引かれました。原稿用紙に文字を書くな

んて、25年ぶりです。

ユウタは、

「何時に出発するのお〜？」

と、早くプラネタリウムに行きたくて仕方ない様子ですが、いつになく真剣に原稿を書く母の姿を見守り、鉛筆削り係をしてくれています。

あれ？

考えてみたら、この夢中さって、自分でも不思議です。もしや、これも、世界天文年の不思議な星の魔法でしょうか？ そうなら、その魔法にかかってみるのもステキな事です。

さあ、ユウタが、お待ちかねです。

今日は、どんな新たな発見があるのか、楽しみに、いってきまーす。